

## ネズミが登場する本

今年も残すところあとわずかになりました。今回は来年の干支でもあるネズミが登場する本を紹介します。

1冊目は、トーベン・クールマン/作『リンドバーグ～空飛ぶネズミの大冒険～』です。

港町に暮らす子ネズミは、図書館に通って人間の本読むことが大好き。

ある日、子ネズミは仲間のネズミたちが暮らすアメリカに行くことを決意します。けれど港には猫がいて船に近づけません。そんなとき空を飛ぶ動物を見て子ネズミは思いつきます。

「そうだ！ 空を飛んでいこう！」

それから子ネズミの試行錯誤の日々が始まります。子ネズミは仲間の待つアメリカにたどり着けるでしょうか。

小さな体に勇敢な心を持った子ネズミを応援したくなる絵本です。

2冊目は、ハリネズミ好き編集部/編『ハリネズミ飼いになる』です。

ハリネズミは、見た目やしぐさがネズミそっくりで、名前にも「ネズミ」とついています。実はハリネズミ科ハリネズミ目に分類されるネズミとは別の生き物。

この本では、そんな不思議な生き物ハリネズミの種類から飼い方、仲良しになる方法がかわいい写真とともに紹介されています。ハリネズミの特徴は、何といても背中に生えているたくさんの針。触るととても痛そうに見えますが、リラックスしているときのハリネズミの針は寝ているので、素手でなでることもできるそうです。

飼い方の他にも、ハリネズミのマスコットの作り方や、かわいい写真の撮り方、ハリネズミを展示している動物園のリストなど、ハリネズミに関する情報が満載。

ちょっと気になる人からハリネズミが大好きな人まで、大満足の一冊です。

3冊目は、沖方丁/著『マルドゥック・スクランブル～The first compression——圧縮～』です。

15歳の少女バロットは、陰謀に巻き込まれ死にかけてところを、ドクター捜査官とネズミ型万能兵器ウフコットによって救われます。目が覚めたバロットに二人は語ります。瀕死の彼女を蘇生するために禁じられた科学技術が使われ、バロットに驚異的な身体能力と特殊な力が身についたことを。バロットは自身を死の淵に追いやった謎を暴くため、二人とともに捜査に乗り出します。

著者は、『天地明察』、『十二人の死にたい子どもたち』などのベストセラーを世に送り出している沖方丁。本作も第24回日本SF大賞を受賞しています。

テンポの良い展開に目が離せなくなる一冊です。

図書館にはこの他にも、色々な動物が登場する本がたくさんあります。冬の読書のおともにぜひ図書館をご利用ください。